4. 旭川駅周辺かわまちづくりの概要

再評価

4．1　事業を巡る社会経済情勢の変化

4．1．1　河川環境を取り巻く状況

（1）事業実施地域の概要

旭川市は「川のまち」と呼ばれ、市内には石狩川をはじめその支流である美瑛川や忠別川、牛朱別川等多くの河川が流れています。

忠別川、牛朱別川にはサイクリングロードが整備され、忠別川のサイクリングロード沿いの公園、野球場、パークゴルフ場は様々なイベントやスポーツ、憩いの場等となっているほか、自然観察や魚釣り等自然とのふれあいの場として、多くの市民に利用されています。

主要流入河川：石狩川
沿川市町村人口（旭川市）：約32万人
※出典：住民基本台帳（令和7年1月1日現在）

図　旭川駅周辺かわまちづくり対象地域及び周辺状況

再評価

（２）河川と旭川市や民間事業者との関わり

河川管理者・自治体等が連携し、過去に「石狩川フェスティバル」等のイベントを開催したほか、忠別川沿いをコースとする国際スキー大会「バーサーロペット・ジャパン」や、国内外から100万人以上もの人が訪れる、北海道を代表する冬のイベント「旭川冬まつり」をはじめとして、花火大会やマラソン大会等、四季を通じて行事を開催しており、河川は周辺地域の社会・文化と深い結びつきを持っています。また、生活の基礎や歴史、文化や風土を形成してきた河川の恵みを活かしつつ、自然とのふれあい、イベント等の河川利用、環境学習の場等として安全に活用できるよう、地域の活性化に寄与する場の整備に努めています。

＜石狩川水系緑地＞

中心市街地に水と緑のオープンスペースを創出することで、市民や観光客が気軽に川と触れ合える場とすることを目的に整備しました。美しい河川環境や親水性のある水辺空間を利用した野球場、テニスコート、ゲートボール場、サッカー場や、噴水、遊具がある散策・休養広場等があり、各種イベント会場としても利用されています。

バーサーロペット・ジャパン

旭川冬まつり

旭川ハーフマラソン

再評価

４．１．２　河川等の利用状況

旭川市の河川敷地は、大雨等による川の増水時の水位の急激な上昇を抑える役割を果たしているとともに、多くの市民が憩いや自然とのふれあい、イベントの場として河川空間を利活用しています。

・忠別川・牛朱別川沿いの河川管理用通路で、散策やサイクリング等を楽しむ光景が見られます。
・忠別川沿いのあさひかわ北彩都ガーデンでは、夏には「北彩都ガーデンフェスタ」、秋には「オータムガーデン」、冬には「冬のガーデンあそびあそばせ」等多くのイベントが開催されており、多くの市民が様々なコンテンツを楽しんでいます。
・あさひかわ北彩都ガーデンは、庭園だけでなくランニングや歩くスキー等も楽しむことができ、令和3年度には約11.5万人が来場しています。
・市民や地元のNPO等と河川管理者が連携しながら、市民参加による清掃活動等の維持管理や小学生を対象とした水生生物の観察会等の環境教育に取り組んでいます。

北彩都ガーデンフェスタ

冬のガーデンあそびあそばせ

水生生物の観察会

再評価

４．１．３　地域開発の状況

旭川市の令和7年1月1日現在の人口は約32万人であり、近年は減少傾向にあります。

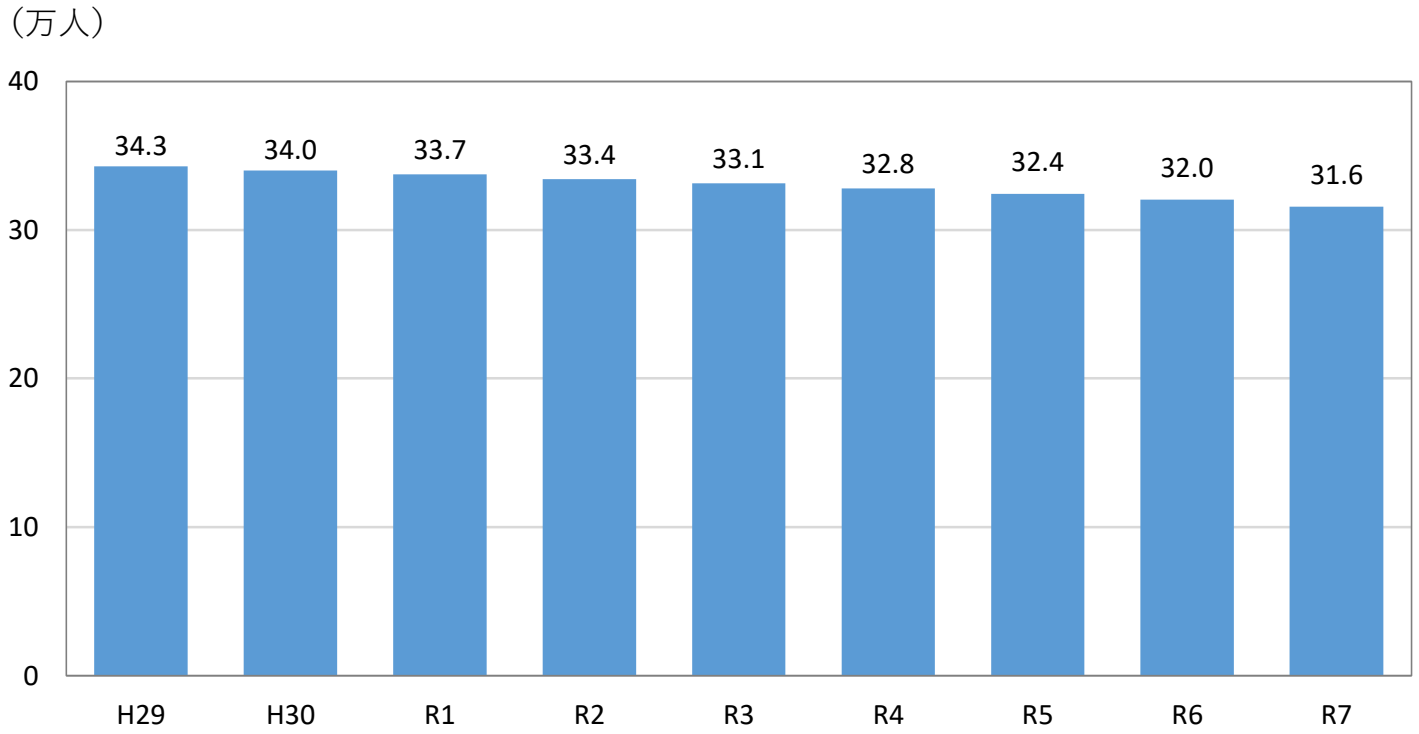


図　旭川市における人口の推移

資料：住民基本台帳(各年1月1日)

再評価

４．１．４　地域の協力体制

令和4年5月以降、「旭川駅周辺かわまちづくり懇談会」を計3回開催しており、JR旭川駅南側地区を拠点とする忠別川・牛朱別川の水辺整備・利活用方法や「かわまちづくり」計画等に関する協議結果を議事要旨としてとりまとめ、ホームページで公開しています。

また、ソフト・ハード施策の立案にあたり、河川管理者や地元事業者と合同で現地確認を行い、水辺空間の現状について認識を共有するとともに、整備・利活用や運営体制に関する意見交換を行っています。

第1回懇談会の実施状況

第2回懇談会の実施状況

第3回懇談会の実施状況

サイクリングによる現地確認

関係者によるラフティング試乗

再評価

４．１．５　関連事業との整合

＜北彩都あさひかわ整備事業（平成27年度完了）＞

川からのまちづくりを基本コンセプトとし、忠別川沿いの自然環境空間と買物公園等、既存市街地の都市と自然の一体化を図り、中心市街地の賑わい創出と活力を取り戻すことを目的に実施しました。

忠別川の大きな景観を生かしながら、都心部にくつろぎの空間を創り出すことによって生活に潤いをもたらすとともに、雄大な自然環境や北国旭川の気候で育った植物を市民や観光客が身近に触れ楽しむことができるあさひかわ北彩都ガーデン等を整備しました。

あさひかわ北彩都ガーデン

＜サイクリングロード案内サイン設置事業（平成29年度完了）＞

自転車利用の安全性・快適性の向上を図り、牛朱別川河川管理用通路への積極的な誘導を推進するため、「石狩川上流サイン設置指針」に基づき、牛朱別川左岸に案内標識を設置しました。

案内標識は設置箇所を最小限とし、ピクトグラムや英語表記を採用し、増水・道路交差の注意喚起や拠点施設までの距離等複数の機能を持たせ、利用者の視認性向上に貢献しています。

案内サイン

再評価

４．２　事業概要及び進捗状況

（１）事業の河川整備計画等の位置付け

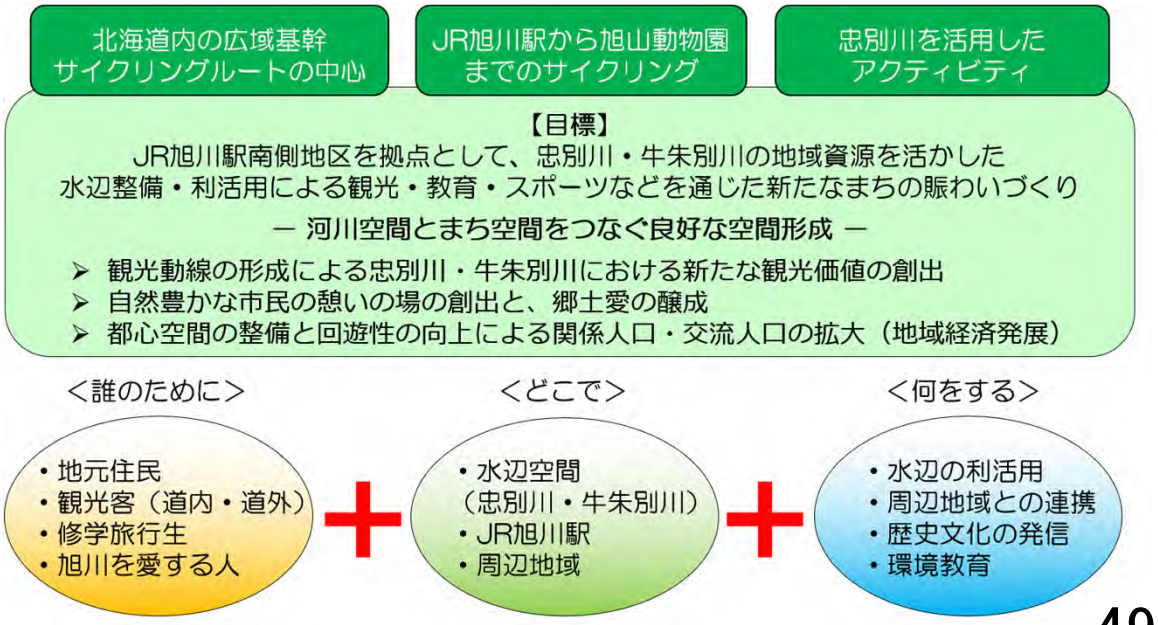
当該整備は、「第8次旭川市総合計画」、「旭川市都市計画マスタープラン」、「旭川観光基本方針」（平成31年3月）、「旭川市景観計画」（平成27年9月変更）との整合を図りながら、「旭川駅周辺かわまちづくり計画」を水とまちをつなぐ人の流れや河川空間に賑わいを創出することを目標としています。

具体的には、旭川市が北海道内の広域基幹サイクリングルートの中心に位置している特性を踏まえ、JR旭川駅南側地区を拠点として、忠別川・牛朱別川の地域資源を活かした水辺整備・利活用による観光・教育・スポーツ等を通じた新たなまちの賑わいづくりを目標に、河川空間とまち空間をつなぐ良好な空間形成を基本理念として、観光動線の形成による忠別川・牛朱別川における新たな観光価値の創出、自然豊かな市民の憩いの場の創出と郷土愛の醸成、都心空間の整備と回遊性の向上による関係人口・交流人口の拡大を推進し、JR旭川駅周辺を含む旭川市の地域活性化に寄与することを目指します。

＜数値目標＞

①水辺空間を活用したサイクリングイベントの企画や、アウトドア体験学習への修学旅行生の誘致により、JR旭川駅構内の観光物産情報センターにおいて、年間約1,500台のレンタサイクル貸出を目指します。

②忠別川・牛朱別川の水辺空間を整備し、年間を通じたかわまちづくり関連イベントに伴う年間約1万人の利用増により、JR旭川駅南側地区全体として年間15万人の集客を目指します。



再評価

（２）事業の経緯

令和４年５月、旭川市、学識経験者、地元関係者等からなる「旭川駅周辺かわまちづくり懇談会」を設立し、JR旭川駅南側地区を拠点とする忠別川・牛朱別川の水辺整備・利活用により、北海道内の広域基幹サイクリングルートの展開や自然環境に恵まれたラフティング等のアクティビティの推進、地域特有の観光・教育資源との有機的な連携を図り、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組について議論してきました。

令和５年度以降、「旭川駅周辺かわまちづくり検討会（仮称）」を開催し、水辺整備や河川空間の利活用推進に向けた具体的な方策を検討していきます。

今後、民間事業者を加え、事業を遂行する実行組織の発足を支援します。

（３）事業の目的

地域の観光ポテンシャルを有効活用したソフト施策の実施による魅力向上を図ることにより、地域や観光客等の外部の人間にとって魅力的な「かわまち」を目指します。

地元住民が安心して遊び、憩い、愛着を持って接することができる河川空間を整備することによりJR旭川駅周辺の地域づくりに寄与します。

再評価

（４） 整備の内容

＜ソフト施策＞

地域のニーズに沿ったソフト施策の実施による魅力向上と地域のブランドイメージ定着を図ることにより、地域に愛され観光客等の外部の人間にとって魅力的な「かわまち」を目指します。

■水辺を周遊する広域的なサイクリング・フットパスコースの設定

・散策やサイクリング等、様々な志向の人が気軽に利用できるよう、忠別川～JR旭川駅～牛朱別川～旭山動物園等の観光交流施設をつなぐ多様なアクティビティのモデルコースを設定します。
①初心者・中上級者向けサイクリング推奨コースマップの作成
②サイクリング大会の実施

サイクリング大会

■忠別川・牛朱別川の水辺空間での新たなイベント・アウトドア利用の企画

・地域の歴史・文化や市民のニーズを踏まえ、関係団体等と連携して、水辺空間を活用した新たなイベント・アウトドア利用を企画します。
①キッチンカーによる飲食販売、水辺ヨガ体験
②既存インフラ施設を活用した水辺イベント

キッチンカー

■冬のアクティビティプランの設定

・河川管理用通路等を活用したファットバイクやスノーランニング等、ニーズに沿った多種多様な冬のアクティビティを推進します。
①河川管理用通路沿いのアイスキャンドル（あさひかわ街あかりイルミネーションの水辺への拡張）
②堤防沿いの積雪面を利用した雪遊びイベント（ファットバイク・クロスカントリースキー・スノーシュー等の冬のアウトドアアクティビティ体験等）

アイスキャンドル

スノーシュー体験

再評価

■水辺空間を活用した環境教育の推進

・様々な世代が川と触れ合いながら、川の歴史・自然やアイヌ文化を学ぶ環境教育を推進します。

①忠別川の歴史・自然を学ぶ体験学習の連続講座（（仮称）ちゅうべつ川塾）
②河川管理者と連携した水防講座
③ラフティング・カヌー等のアクティビティを活用した体験イベント
④水辺でのアイヌ文化体験教室

自然体験会

アイヌ文化体験

■ICTを活用した情報提供

・SNSやインターネットコンテンツ等により、忠別川・牛朱別川の水辺利用モデルコースや川の自然やアイヌ文化に関する情報提供を行います。

①「旭川駅周辺かわまちづくり」のFacebook、X（旧Twitter）、Instagramアカウント作成（かわまちづくり等に関する定期的な情報発信）
②サイクリング・ラフティング利用動画のYouTubeへの投稿
③かわまちづくり関連サイトQRコードの発信（コースマップ、地元広報誌等への掲載）
④サイクリングショップに関する情報発信

■安全・安心な水辺利用に関するルールづくり

・忠別川・牛朱別川沿いの河川管理用通路における歩行者と自転車の分離、水辺アクティビティの利用ルール作りを行うとともに、看板等による注意喚起・周知を行います。

①ルールの明確化（河川で想定される行為と関連法令等の確認に基づく利用ルール（ガイドラインの策定）
②利用ルールのPULL型・PUSH型情報発信による周知（周知看板、出前講座、新聞広告への掲載、自治会回覧板等）

再評価

＜ハード施策＞

JR旭川駅南側地区を旭川市街地における地域観光・まちづくりの拠点に位置づけ、観光客を積極的に誘致し地域の歴史・文化・観光等に関する情報を発信するとともに、市民に日常的に水辺を利用してもらい、水辺とまちをつなぐ人の流れや河川空間の賑わいを創出するため、忠別川・牛朱別川の水辺整備を実施します。

■忠別川・牛朱別川の水辺整備

・忠別川　（国：親水広場及び取付道路、市：橋梁標示）
・牛朱別川（国：側帯、市：路面標示）

JR旭川駅南側地区を河川空間の利活用拠点（「かわ」と「まち」の結節点）として、旭川市街地と水辺をつなぎ「かわ」「まち」間の動線を創出するための水辺整備を実施します。

■周遊コース案内看板の整備（市：忠別川）

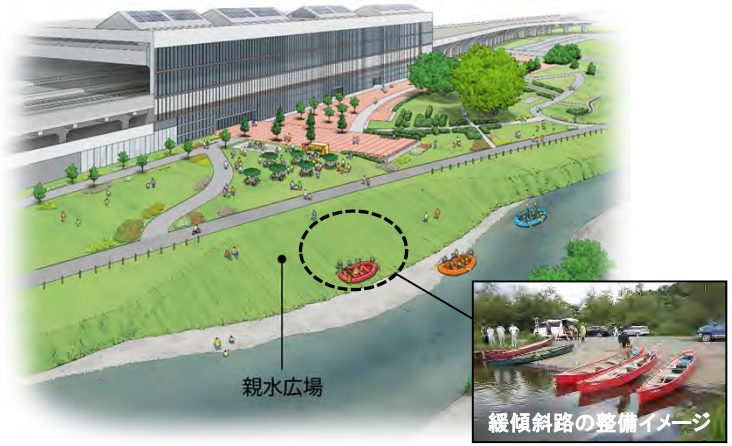
・「まち」から「かわ」への観光動線を創出するため、水辺～JR旭川駅～旭山動物園等の観光拠点施設をつなぐ観光周遊コースへ案内・誘導する看板を整備します。

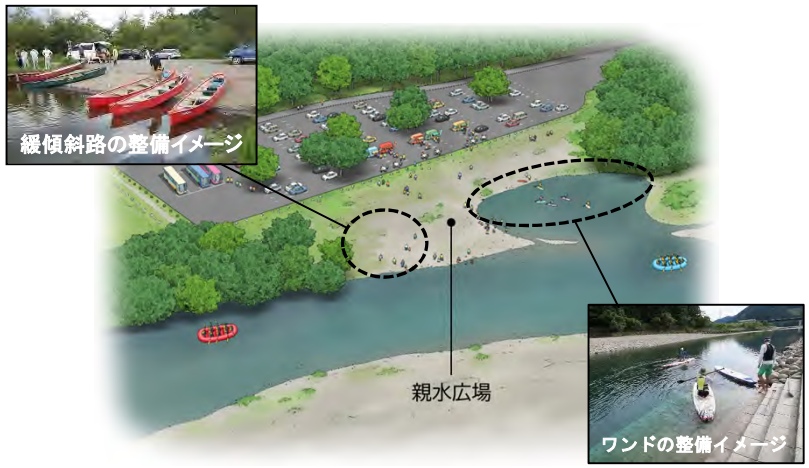
図　整備箇所

再評価

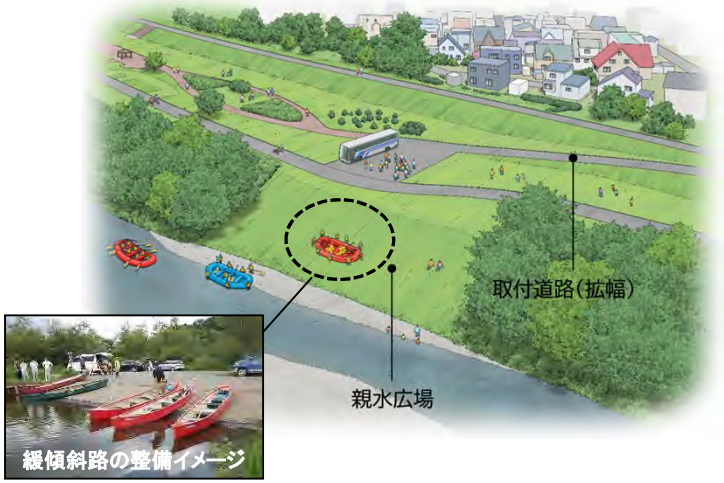
■親水広場及び取付道路（国：忠別川）

・水辺で川と触れ合い水遊びができる空間として、JR旭川駅南口・神楽岡公園・ツインハープ橋近傍の忠別川に親水広場（緩傾斜路等）を整備します。





・忠別川右岸のツインハープ橋上流の既設駐車場に観光等で利用されている大型バスが乗り入れできるよう、既設の取付道路を拡幅します。



再評価

■橋梁標示（市：忠別川）

・ラフティング等の水辺アクティビティ利用者が現在地を確認しやすいよう、JR旭川駅南口付近～ツインハープ橋間に架かる橋梁の桁に橋梁名を標示します。

■路面標示（市：牛朱別川）

・牛朱別川左岸の河川管理用通路に、JR旭川駅や旭山動物園までの距離や進行方向をサイクリング利用者等に注意喚起するためのピクトグラムを標示します。

■側帯（国：牛朱別川）

・サイクリング利用者等が駐輪・休憩できるスペースとして、牛朱別川左岸の河川管理用通路沿いの河川敷地に側帯を整備します。

■案内看板（市：忠別川）

・JR旭川駅南口・ツインハープ橋の近傍に、北海道内の広域基幹サイクリングルート及び忠別川・牛朱別川サイクリングコースの案内看板を設置します。

案内看板設置箇所
（JR旭川駅南口付近）

案内看板設置箇所
（ツインハープ橋付近）

案内看板のイメージ

再評価

（５）期待される効果

「旭川駅周辺かわまちづくり」の整備により、既存アクティビティの機能を充実させ、観光・歴史・文化・まちづくりに関する効果的な情報発信を行うことにより、旭川市街地の認知度・知名度のさらなる向上、地域観光のゲートウェイであるJR旭川駅を中心に「かわ」と「まち」が一体となった賑わいの創出を図ります。

サイクリング

ラフティング

フットパス

再評価

４．３　事業の進捗の見込み

４．３．１　今後の事業スケジュール

旭川駅周辺かわまちづくりについては、令和6年度に事業着手し、令和15年度に完了する予定です。
直轄事業費約5．9億円※のうち、令和7年度末時点で約1．2億円の事業を実施しており、事業の進捗率は約20%です。
※その他費用として、自治体事業費約0．06億円を含め、総事業費は約6．0億円を予定しています。

令和8年度以降の事業
・国　　：「水辺整備（親水広場、取付道路、側帯）」 等
・旭川市：「水辺整備（橋梁標示、路面標示）」「看板整備」等
上記事業については引き続き、旭川市をはじめ地域の方々や関係機関と連携・調整を図りながら計画的に実施します。

表　事業の進捗状況

実施者	工　種	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
河川管理者	水辺整備	■	■	■	■	■					
	モニタリング						■ ■	■ ■	■ ■	■ ■	■ ■
旭川市	水辺整備				■						
	看板整備				■						

■ 工事等期間　■ ■ ■ モニタリング期間

5. 南富良野町かわまちづくりの概要

再評価

5．1　事業を巡る社会経済情勢の変化

5．1．1　河川環境を取り巻く状況

（1）事業実施地域の概要

南富良野町は、北海道のほぼ中央に位置し、町内の約9割が自然豊かな森林地帯であり、中心部には金山ダムによってできた人工湖「かなやま湖」があります。

事業箇所に隣接する空知川では、上流の渓流部やかなやま湖畔を中心に、夏はラフティング、カヌーやマウンテンバイク等、冬はワカサギ釣り、クロスカントリースキーやスノーシュー等、空知川・かなやま湖と山・森の恵みを利用した様々なアクティビティが年間を通じて展開されています。

主要流入河川：石狩川
沿川市町村人口（南富良野町）：約２千人
※出典：住民基本台帳（令和7年1月1日現在）

事業箇所

図　南富良野町かわまちづくり対象地域及び周辺状況

再評価

（２）河川と南富良野町や民間事業者との関わり

かなやま湖で開催される「かなやま湖湖水まつり」等、河川管理者・自治体・事業者が連携したイベントが開催されているほか、空知川・かなやま湖と山・森の恵みを利用した多彩なアウトドアツアーが年間を通じて行われており、空知川は周辺地域の社会・文化と深い結びつきを持っています。
また、かなやま湖周辺では、湖畔の豊かな自然と触れ合える場として、関係機関と連携してキャンプ場等の環境整備を行っています。

＜かなやま湖森林公園＞

キャンプ場、オートキャンプ場、ログホテルラーチ、ラベンダー園等が整備された湖畔公園であり、地域における観光拠点として多くの人に利用されており、「かなやま湖湖水まつり」等のイベントが開催されています。

再評価

５．１．２　河川等の利用状況

南富良野町は、度々空知川の洪水氾濫に見舞われてきた地域ですが、河川整備が進められており、多くの町民が憩いや自然とのふれあい、イベントの場として広く河川空間を利活用しています。

- 空知川沿いの河川管理用道路で、散策やサイクリングを楽しむ光景が見られます。
- 夏には「かなやま湖湖水まつり」、冬には「氷点下まつり」等のイベントが開催されており、かなやま湖畔で多くの町民が森と湖を背景に行われる多彩なプログラムを楽しんでいます。
- カヌーによるかなやま湖の水上散歩やラフティングによる空知川の川下り等、様々なアウトドアアクティビティが行われています。
- かなやま湖畔キャンプ場にはログ風の水洗トイレ、炊事場、野外ステージが整備されており、毎年多くの利用者が来場しています。

かなやま湖湖水まつり

かなやま湖でのカヌー

かなやま湖畔キャンプ場

冬の利用状況（イメージ）

再評価

５．１．３　地域開発の状況

南富良野町の令和7年1月1日現在の人口は約2千人であり、近年は減少傾向にあります。

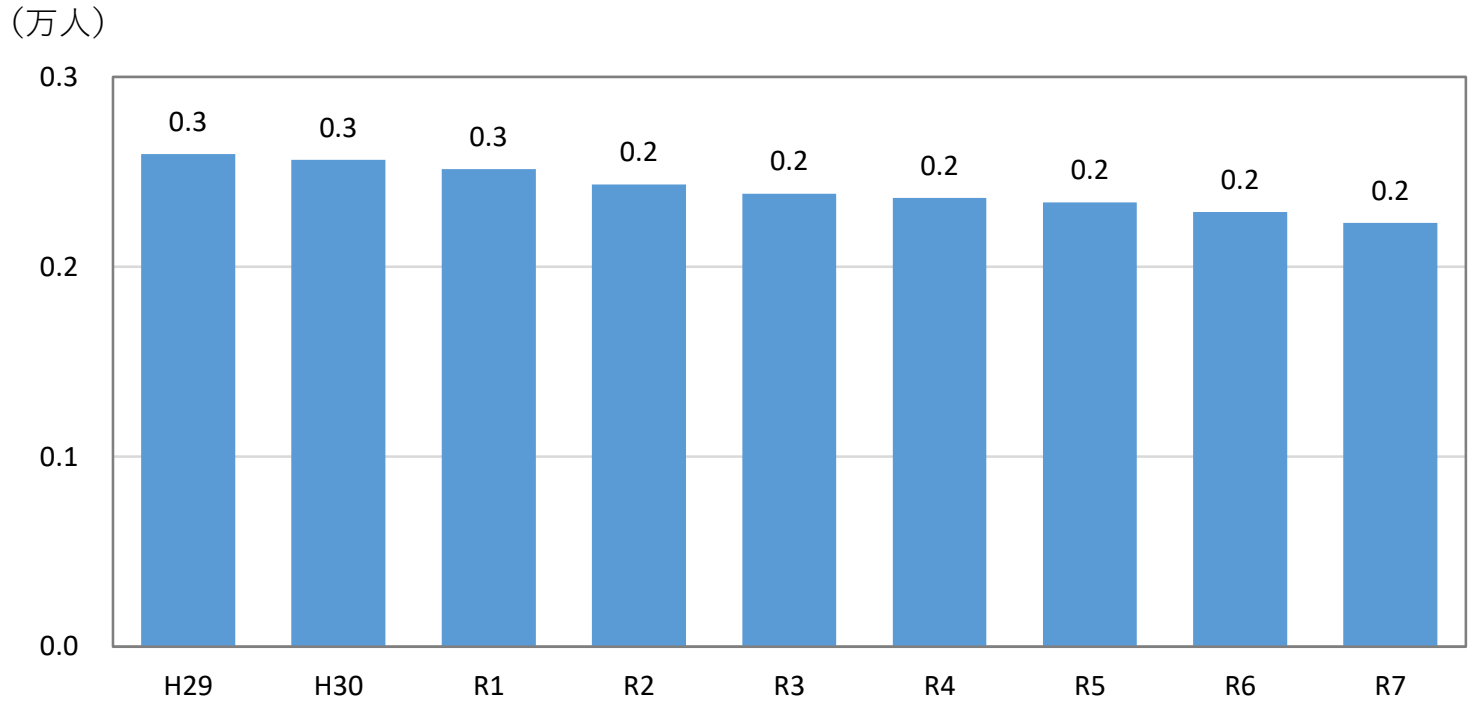


図　南富良野町における人口の推移

資料：住民基本台帳(各年1月1日)

再評価

５．１．４　地域の協力体制

令和４年１０月、南富良野町、河川管理者、地元関係者等からなる「南富良野町水辺空間利活用意見交換会」を開催し、当該地区の水辺整備や河川空間の利活用推進に向けた意見交換を行うとともに、道の駅「南ふらの」やMIZBEステーション周辺の河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組について協議しました。

令和５年２月、南富良野町、河川管理者、アウトドア事業者等からなる「空知川における都市・地域再生等利用区域勉強会」を開催し、当該地区やかなやま湖を含む空知川における都市・地域再生等利用区域の指定に向けた意見交換を行いました。

また、令和５年３月、南富良野町、河川管理者、自治会からなる「南富良野町河川空間利活用協議会」を開催し、かなやま湖周辺や空知川等の景観、歴史、文化及び観光資源や地域の創意を生かした水辺の賑わいの創出と将来のまちの活性化・元気再生に寄与することを目的として、河川空間の利活用に関する意見交換を行いました。

南富良野町水辺空間利活用意見交換会

南富良野町河川空間利活用協議会

再評価

５．１．５　関連事業との整合

＜道の駅事業＞

道路利用者のための休憩機能、道路利用者や地域の人々のための情報発信機能、地域のまち同士が連携する地域の連携機能という3つの機能を併せ持つ道路施設として、南富良野町と道路管理者が連携し国道38号に整備しました。空知川に生息するイトウやアメマスを自然に近い状態で展示している他、南富良野産の農産物加工品や木彫品、陶芸品、手芸品等を販売しています。

国土交通省の令和元年度「重点道の駅」に選定されたことを受け、道の駅再編整備計画を推進し、令和４年度にレンタルショップやアウトドア商品を取り扱う複合型商業施設、令和6年度に公園を新たにオープンし、令和7年度に南富良野町物産センターをリニューアルオープンしました。

道の駅「南ふらの」

道の駅「南ふらの」複合型商業施設

５．２　事業概要及び進捗状況

（１）事業の河川整備計画等の位置付け

南富良野町では「南富良野町第6次総合計画」に基づき、かなやま湖周辺や空知川等の自然環境の保全と、これらを活用した自然体験観光の振興を図るとともに、新たな観光基盤の整備を進め、通年型の観光地づくりを目指しています。既存の観光事業の振興や新たな観光資源の掘り起こし、観光ガイドの育成、ホームページ等を活用した効果的なPRを推進しています。

上記の事業と連携し、今回のかわまちづくり計画を水辺とまちをつなぐ人の流れや河川空間に賑わいを創出することを目標に位置付けました。具体的には、今後整備されるMIZBEステーションや近傍に位置する道の駅「南ふらの」と空知川が一体となった水辺空間の活用、周辺地域との連携、幾寅地区の歴史・文化の発信を推進し、空知川の水辺空間を中心とする広域観光・まちづくりによる賑わいの創出により、幾寅地区を含む南富良野町の地域活性化に寄与することを目指します。

再評価

＜数値目標＞

MIZBEステーションと一体で空知川の水辺空間を整備し、パークゴルフ場、キャンプ場・RVパーク等の運営や年間を通じたイベントの企画により、年間2万人の集客を目指します。

基本方針

道の駅再編を中心として観光施設の充実を図るとともに、農林産物を活用したご当地の料理やお土産の販売など町内における観光客受け入れ体制の充実に努め、関係人口の拡大を図ります。また、観光ＰＲの強化を図るとともに町の資源を活かした魅力ある観光づくりを推進します。

主な施策

（1）観光・交流資源の充実

豊かな自然環境を最大限に活かし、四季に応じた体験観光の振興を図るとともに、農林業や食と連携した観光事業を推進します。また、南富良野の魅力を凝縮したブランド力発信拠点として道の駅及び周辺整備を推進します。

主な事業・取組	○道の駅再編整備事業の推進 ○ログホテルラーチや保養センター、オートキャンプ場などかなやま湖周辺の観光施設の活性化 ○かなやま湖周辺の環境美化対策、安全対策の推進 ○農産物やエゾシカなど特産物を活用した食による観光振興 ○農林業と観光産業との連携及び新たな観光メニューの創出 ○通年可能な体験観光メニューの開発及び拡充 ○移住お試し住宅の整備 ○移住相談ワンストップ窓口の設置 ○金山果樹園の観光資源としての活用促進 ○国際交流協議会の活動支援

（2）観光ＰＲ活動の充実

南富良野まちづくり観光協会等との連携のもと、観光パンフレットやＳＮＳ、ポスター、ホームページ、マスコミなどの多様なメディアを活用した、観光情報などの発信に努めます。

主な事業・取組	○南ふらの物産センターにおける観光情報提供機能の充実 ○オートキャンプ場などかなやま湖周辺の観光施設のＰＲ推進 ○外国人観光客に対応した観光情報提供体制の整備 ○富良野広域圏や定住自立圏との連携による効果的な観光ＰＲ等の推進 ○ＳＮＳを活用したまちづくりや観光の情報発信

（3）新商品や加工品の開発・研究の促進

農林産物など南富良野町の地域資源を活用した事業開発と雇用の創出を図るための支援を行います。

主な事業・取組	○特産品開発支援事業の推進

出典：「南富良野町第6次総合計画」、令和5年3月

再評価

（２）事業の経緯

令和４年１０月以降、南富良野町、地元関係者等からなる「南富良野町水辺空間利活用意見交換会」や、「南富良野町河川空間利活用協議会」等を開催し、MIZBEステーション及び周辺水辺空間の利活用方法や、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組について意見交換を行いました。「かわまちづくり支援制度」を活用した「南富良野町かわまちづくり」として国土交通省に申請し、令和５年８月１０日に登録されました。

（３）事業の目的

地域の観光ポテンシャルを有効活用したソフト施策の実施による魅力向上と、ブランドイメージ定着を図ることにより、地域や観光客等の外部の人間にとって魅力的な「かわまち」を目指します。

地元住民が安心して遊び、憩い、愛着を持って接することができる河川空間を整備することにより、幾寅市街地の地域づくりに寄与します。

再評価

（４） 整備の内容

＜ソフト施策＞

地域のニーズに沿ったソフト施策の実施による魅力向上と地域のブランドイメージ定着を図ることにより、地域に愛され観光客等の外部の人間にとって魅力的な「かわまち」を目指します。

■夏季における新たなイベント・アクティビティの企画（観光協会、民間事業者等）

①ラフティング・カヌー、ガイド付魚釣りツアー
②デイキャンプ、バーベキュー、RVパーク、テントサウナ
③イトウ産卵床見学ツアー、　河畔林でのクワガタ狩り（自然体験）
④防災講話・流水歩行体験　（ライフジャケットを着用したリバーウォーキング）
⑤道の駅・MIZBEステーションを起点とするサイクリング
　周遊コースパンフレットやチラシ作成
⑥パークゴルフ場（日常利用・イベント）

パークゴルフ場

■冬季における新たなイベント・アクティビティの企画（観光協会、民間事業者等）

①テントサウナ、イグルーキャンプ、バーベキュー、RVパーク
②イベント会場（雪まつり）、雪像展示、アイスキャンドル
③雪遊び広場（雪合戦、雪中綱引き、雪山、そり遊び）
④MIZBEステーションを発着とするスノーシュー周遊コース
⑤スノーモービル体験試乗、犬ぞり体験

スノーシュー

■MIZBEステーション内の展示・多目的利用（南富良野町）

①水害の歴史・郷土資料・自然学習成果等の展示
②会議・ミーティング・コワーキングスペース
③悪天候時の遊びスペース

再評価

＜ハード施策＞

今後整備が予定されているMIZBEステーション及び道の駅「南ふらの」を幾寅地区における地域観光・まちづくりの拠点に位置づけ、地域の歴史・文化・観光等に関する情報を発信するとともに、市民に日常的に水辺を利用してもらい、水辺とまちをつなぐ人の流れや河川空間の賑わいを創出するため、空知川の水辺整備を実施します。

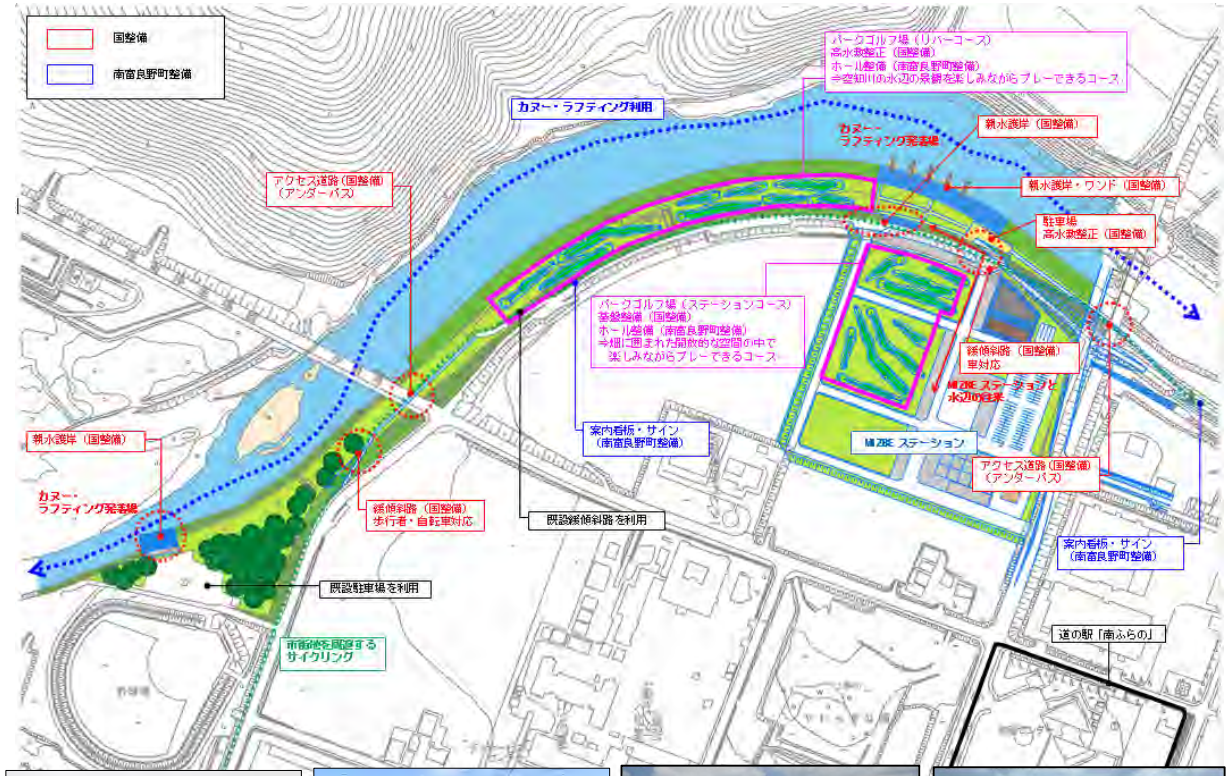
■空知川の水辺整備

（国：親水護岸、ワンド、アクセス通路、高水敷整正
町：パークゴルフ場）

・MIZBEステーション及びその周辺を河川空間の利活用拠点（「かわ」と「まち」の結節点）として、水辺とまちをつなぐ動線を創出するための水辺整備を実施します。

■周遊コース案内看板の整備（町）

・水辺とまちをつなぐ観光動線を創出するため、水辺―MIZBEステーション―道の駅「南ふらの」等の拠点施設をつなぐ市街地周遊サイクリングコースへ案内・誘導する看板・路面標示を整備します。



親水広場のイメージ

アクセス通路のイメージ

高水敷整正のイメージ

道の駅「南ふらの」

図　整備箇所

再評価

図　空知川 水辺の季節ごとの利活用イメージ

■MIZBEステーションの利活用施設整備
（町：パークゴルフ場、休憩施設等）

・水辺の観光ポテンシャル・利便性向上に向け、地元住民が安心して遊び、憩い、愛着を持って接することができる河川空間創出のための整備を実施します。

図　MIZBEステーションにおけるパークゴルフ場の整備イメージ